

(基礎物理学研究所研究会2015「生物・医学を物理する」特別セッション)

Wolfgang Weiss博士 講演会



日時: 2015年5月28日

15:00～16:30

場所: 京都大学北部総合教育研究棟
益川ホール



講演タイトル

欧米での低線量放射線影響の国家プロジェクト動向について(仮題)

講演者: Wolfgang Weiss氏

略歴: 1975年にドイツハイデルベルグ大学物理学科で博士号取得後、ドイツフライブルクの大気研究所長、ドイツ連邦放射線防護局の放射線防護および健康部局長官を経て、2011～2012年に原子放射線の影響に関する国連科学委員会(UNSCEAR)議長 MELODI名誉会員

趣旨

欧米では低線量放射線のリスクを研究する国家プロジェクトが盛んになっている。欧州ではMultidisciplinary European Low Dose Initiative(通称MELODI)、米国でもエネルギー省や米国科学アカデミーが取り組んでいる。今回はUNSCEAR(原子放射線の影響に関する国連科学委員会)の議長のWolfgang Weiss氏を招き、最新の動向および日本における同様の国家プロジェクトを立ち上げる必要性について議論する。

モデレーター: 樋口敏広氏(京都大学白眉センター助教)

略歴: ジョージタウン大学歴史学部で博士号取得後、スタンフォード大学フェロー、ウィスコンシン州立大学准講師を経て現職。専門は国際政治史・環境史・科学史。

アドバイザー:

丹羽太貫(福島県立医科大学理事長付特命教授)、高橋千太郎(京都大学原子炉実験所教授)、吉川研一(同志社大学教授)、鈴木達治郎(長崎大学核兵器廃絶研究センター教授)、柴田徳思(日本アイソトープ協会専務理事)、藤原守(大阪大学核物理研究センター協同研究員)山本潤(日本物理学会京都支部長、京都大学大学院理学研究科教授)、身内賢太郎(日本物理学会大阪支部長、神戸大学大学院理学研究科准教授)

主催: 京都大学基礎物理学研究所、日本学術振興会研究開発専門委員会・先導的研究開発委員会「放射線の影響とコミュニケーション」(予定)、日本物理学会 大阪支部および京都支部

組織委員: 坂東昌子(NPO法人あいんしゅたいん理事長)、和田隆宏(関西大学システム理工学部教授)、樋口敏広(京都大学白眉センター助教)、真鍋勇一郎(大阪大学大学院工学研究科助教)

問い合わせ先: 大阪大学 大学院工学研究科 真鍋勇一郎

E-mail: manabe_y@see.eng.osaka-u.ac.jp

益川ホールの場所: <http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/campus/facilities/kyoshokuin/hokubu>